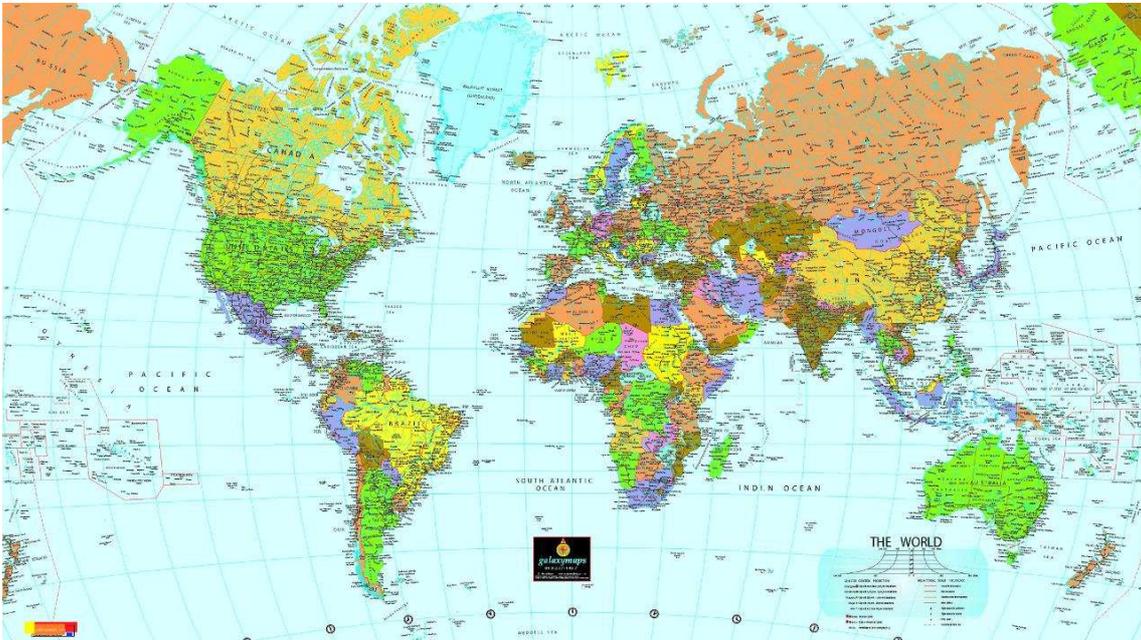


# 「国際政治」「外交政策」を、古典と新書で学ぼう!!



## <古典>

- ・ E・H・カー『危機の20年』岩波文庫  
\*国際政治学の古典。引用「(健全な政治姿勢には)リアリズムとユートピアニズムの融合が肝要である」。
- ・ ハンス・モーゲンソー『国際政治』岩波文庫  
\*国際政治学の古典。引用「国際政治は、国内政治と同様に、権力闘争である」。
- ・ 高坂正堯『国際政治』中公新書  
\*国際政治学の古典。引用「国際政治とは、力の体系であり、利益の体系であり、価値の体系である」。
- ・ 武者小路公秀『国際政治を見る眼』岩波新書  
\*国際政治学の古典。引用「近代の国際システムは、西欧国家体系から米ソ冷戦体系へと転換した」。
- ・ ヘドリー・ブル『国際社会論』岩波書店  
\*英国学派の金字塔。グロティウスの国際政治観を提示する。
- ・ ハリー・ヒンズリー『権力と平和の模索』勁草書房  
\*国際政治学の古典。引用「権力と平和の問題は、大きな戦争の直後に、特に肝要になる」。

- ・ **ジョージ・F・ケナン『アメリカ外交 50 年』岩波現代文庫**  
\*アメリカ外交論の古典。著者は、トルーマン政権の国務省政策企画室初代室長。  
引用「アメリカ外交は、法律家的・道徳家的なアプローチに陥りやすい」。
- ・ **ニコルソン『外交』東京大学出版会**  
\*外交についての古典。比較的、読みやすい。

#### <新書>

- ・ **石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂**  
\*20 世紀のはじめての通史。米ソ冷戦史の権威による国際関係史。  
※「ヨーロッパ政治外交論」のテキスト
- ・ **細谷雄一『外交』有斐閣**  
\*古典的外交についてのテキスト。イギリス外交史家による問題提起。外交とはどうあるべきかを問う。
- ・ **細谷雄一『国際秩序』中公新書**  
\*近代のヨーロッパから、21 世紀のアジアまでの国際秩序を論じる。国際秩序をいかに安定化させるかを問う。
- ・ **ヘンリー・キッシンジャー『外交』日本経済新聞社**  
\*19 世紀から 20 世紀の 2 世紀の外交の歴史を丹念に論じる。著者は、ニクソン政権の国家安全保障問題担当補佐官、国務長官を歴任した。
- ・ **滝田賢治ほか編『国際関係学』有信堂**  
\*最新の国際関係学のテキスト。資料が豊富で、便利である。  
※「外交政策論Ⅰ」「国際関係論Ⅱ」のテキスト
- ・ **田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識 [新版]』有斐閣**  
\*国際政治経済についてのキーワード集。資格試験にも、便利である。
- ・ **石井修ほか編『現代アメリカ外交キーワード』有斐閣**  
\*現代アメリカ外交のキーワード集。100 項目ある。
- ・ **納家政嗣『国際紛争と予防外交』有斐閣**  
\*日本の安全保障研究の金字塔。国際秩序の在り方について問題提起する。
- ・ **村田晃嗣『現代アメリカ外交の変容』有斐閣**  
\*保守のアメリカ外交史家による学術書。レーガン政権からオバマ政権まで。
- ・ **西崎文子『アメリカ外交とは何か』岩波新書**  
\*リベラルなアメリカ外交史家による新書。建国から冷戦後まで。  
島村ゼミナールのテキスト
- ・ **島村直幸「国際システムそのものを俯瞰する」馬田啓一ほか編『国際関係の論点』文真堂**
- ・ **島村直幸「アメリカ外交」杉田米行編『アメリカを知るための 18 章』大学教育出版**